

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.87 2019年9月29日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369
ホームページ：http://www.keihinkyoudougekidan.com/bunkano-nakama/

第21回 文化の仲間定期総会

2年ぶりに定期総会を開催しました

世話人会事務局長 山木 健介

「京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間」第21回定期総会を9月8日(日)にスペース京浜(京浜協同劇団稽古場)で開催しました。

昨年は台風の影響で中止しましたので、2年ぶりの総会になりました。

今年も台風が近づいていて総会終了後の深夜には台風が通過しました。深夜から翌日にかけて台風の影響で停電する地域も出て大変なことになりました。

総会は台風の前の好天で行われ、短時間の中でも中身の濃い議論がされました。総会の中で、劇団は稽古場公演も良いが新しいところを開拓して公演をするなど挑戦をしてほしいとの要望が出されました。演劇をやる環境が厳しくなっており、演劇をやる人も少なくなっている、劇団員も少なくなっている、などの厳しさもある中で、公演を続けている京浜協同劇団と一体となった活動の必要性和難しさを、文化の仲間として感じさせる議論でした。

また、文化の仲間の会報に、新聞の社説のような主張を載せたらどうか。会としての主張が難しければ署名入りのメッセージでは。会員のメッセージをリレー



で次々に紙面に載せては。という意見や、会員に色々な感想を書いてもらうのをもっと広げては。などの意見が出されました。

毎年1月におこなっている「お正月お楽しみ会」は、地域の人たちが気軽に劇団に来てくれるようにするにはどうするか? 子供を集めれば親や祖父母も一緒に来てくれるだろう。という発想で始めて12回目になりますが、少しですが、地域の人から声がかかるようになってきています。主な行事には地域にチラシを配布していますが、今年の8月の劇団屋上の花火納涼会にも、近所の方から、孫を連れて参加したいが会費はいつ払ったらよいのかと劇団員に声がかかりました。

今後、劇団周辺にお住まいの方々や古市場の地域の方々に呼びかける企画をおこなっていきます。

総会の最後に、以下の方を「世話人」(役員)に選任しました。(敬称略)

二村 柊子・高橋明義・藤崎秀子(以上代表) 山木健介・須田セツ子・西川日女子(以上事務局) 小野寺晃・佐藤友吉・常名孝央、橋本教善の10名です。

総会終了後には、総会記念企画として、舞台美術家の小池れいさんの講演がありました。



文化の仲間総会記念講演・小池れいさん

演劇史の一断面を思い描いた1時間半余

河村 はじめ

小池れいさんと劇団との最初の接点は4年前の演劇講座（スタッフの仕事を学ぶ初めての企画）。小池さんはとても積極的に関わって下さり、全体としても大変充実した講座となりました。



その翌年に演劇まつり『ブンナ』で実際に舞台美術を担当して頂いたときは「市民による手作りの舞台」という公演の性格に即した

製作をして頂いたことが心に残っています。あるとき小池さんは、今回の講演の題の一つである朝倉摂の事務所に所属していたことについて、「目先の利く人はすぐ出て行くが、私は随分長く事務所に居た」と謙遜気味に仰っていましたが、その時から私は小池さんを工房の人（職人）であると、勝手ながら印象を持っています。理念的・抽象的な言葉を決して口にしない。口より先に手足を動かして「創る」仕事をやって来られた人。2年振りに来団された小池さんはその印象のまま、事実を淡々と1時間半にわたって語られた。

講演の前半は美術製作手順の紹介、後半が小池さんの知る美術家・朝倉摂のお話でした。1年延期となった小池さんの講演ですが、お陰で？昨年9月都内で上演された Kawai Project 「お気に召すまま」（シェイクスピア作）の美術・衣裳製作のプロセスを詳しく伺うことができました。

写真画像を見る限りでも、舞台への効果が想像されます。囲み客席の中で役者が演じるという制約に対し、舞台には円形の床（森では深い緑の芝、宮廷では市松



模様）を敷き、森の場面ではさらに天井にも緑が浮かびます。因みにこの天井の緑は仕込みができないため、俳優たちがモノを運び込み、その場で広げてワイヤーの付いたバイヤックをシートの端に付けてスタッフが引っ張り上げる、いわゆる「見せ転」（転換作業を客に見せてしまう）としました（この隙にロザリンドは薄暗くなった舞台隅で男装に変わる）。その他草の材質の選定から貼り付け作業の様子まで、細部にわたりました。

話は一転、朝倉摂さんの話題となります。勤めていた時代の事務所の雰囲気や仕事の様子、事務所の建物や近辺（芸術的な感性を刺激する場所だったとのこと）の歴史的な由来など、小池さんならではの細やかなお話でした。朝倉さんは事務所ではいつも何か絵を描いていた。小柄だけれど派手な人で、オーラがあり百メートル先からでも朝倉さんだと判った。先日亡くなった



島次郎氏が「舞台美術を職業として確立した人」と評したその業績の幾つかも写真画像で紹介。ごく一部を挙げれば、79『近松心中物語』、91『蜘蛛女のキス』、94『ゴドー』、96『幸せの背くらべ』、2006『ベルナルダ・アルバ』……。特徴的なのは透明アクリル板を使った効果で、多層性のある場面を構成する斬新な美術です。

小池さんご自身は、十代のとき観た『オペラ座の怪人』が舞台美術を目指すきっかけだったとのこと。当時は専門に学ぶ大学はなく、桑沢デザイン研究所に入り、講師もやっていた朝倉摂の事務所に入った。当時は舞台美術家、また女性のそれは少なかった。今は大学もあり、若手も沢山居る。時代は変わったが、自分が夢みた仕事を、今もやれていることは幸せなことだと思っている。そう仰ってお話を結ばれた。新鮮な話題に演劇史の一断面を思い描いた1時間半余でした。

（京浜協同劇団員）

細田寿郎さんと渡辺高志さんを偲びながら

第4回旬を楽しむ会で思ったこと

和田 庸子

6月16日、「細田寿郎さんと渡辺高志さんを偲ぶ旬を楽しむ会」が開催された。文化の仲間の会の男性幹事が準備してくれた旬の肴（かんぱち・かつお・ホタテなど）や野菜・果物、炊き込みご飯に舌鼓をうちながら、皆で2人への思いを語り合った。

細田さんが私をウラミながら亡くなったのは確かだと思う。なぜウランでいたかって？ 理由は「おりん」（2018年11月上演）である。自分の最後の仕事として「おりん」を演出したかったのに、そうはならなかったからだ。



細田さんは怒った。「俺はあんたの作品を一度も演出していないんだぞ。なんで俺じゃダメなんだ？！なんであんたなんだ！」痛いほど細田さんの気持ちがわかるだけに、黙ってしまった私。その後、細田さんは上演を待たずに2018年6月中旬、あの世に旅立った。「おりん」の稽古も本番も観てもらうことはできなかった。演出に決まっていたら、秋まで生き抜いたのだろうか……今もふとそんなことを考える。

京浜協同劇団の研究生になるために初めて稽古場を訪れた時、面接してくれたのが細田さんだった。私＝21歳、細田さん＝45歳。親子ほどの年齢差だ。「労働者らしい」あたたかい笑顔と、低く明るく響く声、きちんとした物腰が印象的だった。

入団後ときどきご飯をご馳走になりながら、お喋りをした。「労働者演劇論」を叩きこまれた。「労働者になぜ演劇が必要なのか」「劇団は今、何が問題なのか」「知性とは何か」演劇大学中退の私にとって、細田さんの話は魅力的で感動的だった。細田さんはけっこう



正直で、自分の非力さや劇団内での「挫折」についても率直だった。

細田さんに抵抗しはじめたのは、今の稽古場を建てる時に公演した「旅人たちの祭り」の頃からである。細田さんは演出を担当し創造の中心を担っていた。劇団全体が「新稽古場建設」に必死な取り組みをしている中で、細田さんの「演出」は弱々しく見えた。団内はザワザワし、演出への批判が公的会議でも語られた。そんな苦しい経過をたどったにもかかわらず、あとで録音を聴いてみたら、そのとき産まれた歌と歌声の素晴らしさ、ウソのなさ！（安達元彦作曲）

以降、ナニカにつけて細田さんに呼び止められ話す時間を持つようになり、13年前からは隣に住まいするようになった。シメサバの作り方を実地に教えてくれたり、花の咲く盆栽をプレゼントしてくれたりして最高の隣人だったが、一劇団員同士としてはしょっちゅうぶつかり応酬しあった。「まったく、どうしようもない父親みたいなんだから！」とある人に話したら「宿命だと思ってあきらめな」と言われた。

没後1年、細田さんの声が聞こえてくる。「オイ、次の作品はどうなっているんだ？ 何かうまいものを食いに行こう。演出は今度は絶対俺だゾ」細田さん、ありがとう。（京浜協同劇団員）



花火納涼会——今年は花火が中止に

来年は予定通り開催されることを祈る

西川 日女子

8月15日木曜日、今年の花火交流会は、いろいろな面で異例づくめだった。晴れてはいたが風が強く、屋上の掃除では怖ささえ感じた。午前10時過ぎ、花火大会の警備を依頼されていた劇団員の伊藤厚さんが見えて、「今日の花火大会は強風のため、中止になった」と知らせてくださった。この知らせはありがたかった。中止を知らなければ、必要のない屋上での設営作業を続けていたと思う。料理の準備にはまだ間があったので、手伝いに来てくれた劇団員と文化の仲間会員との思わぬ交流の場を設けることができた。これはとても良かったと思う。あれほど、ゆっくり話し合ったことは今までなかったと思うので……。

大田区の花火大会が中止になったため、1階稽古場での交流会となった。文化の仲間会員8人、劇団員8人、市民劇出演者3人、演劇まつり出演の女子中学生



1人の合計20人の参加で料理とお酒を楽しんだ。

今回特にたいへんだったのは、台所のガス台の上に焼き鳥器を置き、炭火で焼き鳥を焼くことだったと思う。換気扇の作動状態等、いろいろ苦労があったようだ。

また、今回の会費について、1500円とし、小学生以下無料としていたが、中学生が来てくれたことだ。想定外のことで、会計担当の私は一瞬とまどい、劇団代表の藤井康雄さんから「500円でどう？」と助け舟を出していただいた。さらに、中学生の会費は藤井さんが払ってくれたのだ。感謝！感謝です。今思うと、中学生、高校生の会費について決めていなかったのだ。でも、大人と同じ1500円はいただけない。来年に向けて検討することになりそうだ。

交流会は、文化の仲間世話人の橋本さんの焼き鳥調理などの奮闘によって、おいしい料理をいただき、交流を深めることができた。

今は、来年の花火大会が、晴天に恵まれ、強風も吹かずに予定通り開催されることを祈るばかりである。

参加された皆様、どうもお疲れ様でした。



新刊の紹介

軍馬と橇円球

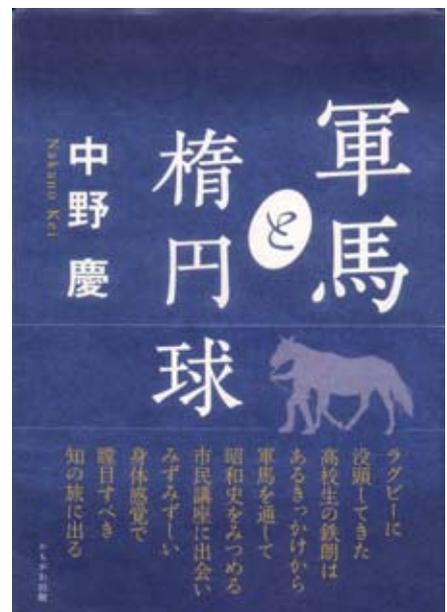
中野 慶 著 かもがわ出版 2200円＋税

「文化の仲間」会報85号に、劇団公演「おりん 姥捨て異聞」の感想をお寄せいただいた宮前区在住の作家・中野慶さんが、これまで児童書・ジュニア向けの小説は発表していましたが、このたび、一般向けの小説の第一作を上梓されました。

——ラグビーに没頭してきた高校生の鉄朗はあるきっかけから軍馬を通して昭和史をみつめる市民講座に出会い、みずみずしい身体感覚で瞠目すべき知の旅に出る——

歴史学出身の著者らしい精緻で、しかも想像力あふれる文章によって、読者は少年の知の旅の同行者となるでしょう。

(会報編集部)



劇団員による劇団員紹介 第6回——大谷敏行さんによる和田庸子さん紹介

婦唱夫随の和田ジュリエット

京浜協同劇団 大谷 敏行



和田さんのことを一言で評するとすれば、才女でしょうか。唯一の座付き作者として数多くの戯曲をものにし、演出を手懸けてこられました。最近作『おりん』は、おお向うを心胆寒からしめて大入り満員、再演も期待されているところです。

ところで、公の活躍はさておき、今は私の面、プライベートな側面、人となりに触れてみたいと思います。

ここに1枚の写真があります。何年前か前、彼女の故郷で撮られてスマホで私に供されたものです。近くの公園のベンチに護柔さん、お孫さん、真ん中に和田さんが座っている写真ですが、和田さんを語る場合、ご主人の護柔さんに触れないわけにはいきません。

護柔さんのくつろいだ好々爺とした表情、和田さんの天真爛漫(?)の笑顔、いたいけなお孫さん、幸せを絵に描いたような一こまですね。

さて、ここでちょっとしたエピソードを。何年前のことですが……。劇団の有志でデモに参加し、喫茶店に立ち寄ったときのこと。私めが和田さんに不躰な質問を唐突にしたのです。

「護柔さんとの結婚は和田さんのほうが積極的だったそうですね」と以前小耳にはさんだ噂をネタに訊ねたら、答えは「ああいう人ですからね」という悪びれない率直なものでした。嫌な顔せず。これは彼女のピュアな人柄が見て取れると思います。

さらに別のエピソードを……。渡辺さんが亡くなったときのこと。和田さんが唐突に「あの人は死なない

人だと思っていた」と、思わず口を突いて出たという感じでつぶやきました。

私は意味を測りかね、同じ屋根の下で永年暮らした渡辺さんとどうだったのかな?と、ちょっと戸惑いました。私は私心のない渡辺さんに好感を持っていましたが……。

しかし、お通夜の席で、和田さんが涙をこぼしているのを見て安堵したのを覚えています。

話はまったく変わりますが、概して男はロマンチストで女はリアリストとありますが、和田さんもご多聞に漏れずリアリストではないかと? 新聞からの受け売りですが、「ロミオとジュリエットの小説版を翻訳された女性の見解。ジュリエットはか弱く夢見がちな女の子だと一般に思われていないだろうか? いやいや、ジュリエットはたいしたリアリストである。ロミオとの関係を終始リードしていくのは彼女のほう。『求愛』『結婚』もすべてジュリエットのほうからさらりとしたのだ」と。

護柔さんとの婦唱夫随の和田ジュリエットに幸せあれだ。

暮れなずむ晩夏の拙宅にて



若菜とき子さんが受賞

劇団の女優、若菜とき子さんが日本舞台芸術家組合(鈴木龍男委員長)の組合賞を受賞することに決まりました。働きながら65年間にわたり、川鉄演劇研究会、京浜協同劇団でほとんどの舞台に出演、女優として活躍してきた功績が評価されました。

この賞は、俳優、裏方スタッフ、制作など舞台芸術上で貢献した人に贈られるもので、今年度は次の3名が受賞することになりました。

- ・若菜とき子さん 俳優(京浜協同劇団)
- ・小松慶子さん 照明家、舞台監督(仙台小劇場)
- ・若林こうじさん 身体表現(俳優)(太鼓と芝居のたまっこ座)

顕彰式は10月14日(月・祝)18:30 東京・中国料理「歓」で。

追悼 齊藤博章さん

文化の仲間会員で川崎演劇協会会長を長年務めて来られた齊藤博章ひろあきさんが、病氣療養中のところ、8月31日、亡くなられました。75歳でした。京浜協同劇団からは城谷護演劇まつり実行委員長が弔辞を読みました。心からお悔やみ申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

連載 「京浜協同劇団」と私——第9回

自分の音楽の言葉を持っているかが…

岡田 京子

「わらび座」には（このように）3年いました。原太郎氏の依頼があったとはいえ、このような自由な存在の仕方を許してもらえたのは、思えば、座長の横山茂さんの心が大きかったと思います。

横山さんはソビエトの帰還者で、すばらしい声を持つ歌手でしたが、わらび座では、座員の教育のほうに力を注いで、その声を聞いたのは、再び東京で出会ったときでした。このことは、別に書きたいと思っています。

東京に帰った私が思ったことは、たった3年とはいえ、自分の音楽・音に対する気持ちがすっかり変わっていたことでした。清瀬保二氏に師事するようになって、それがどんなものなのかがどんどんはっきりしていきました。「作曲家の母語はその国の民謡だ」と言われた原太郎氏の言葉も、あらためて理解していきました。

清瀬先生も、その著書の中に書かれていますが、「日本の作曲家の運命的問題」という言葉が何を言われて

いるかもわかるようになりました。たしかにこれは音楽一般の問題ではなく、少なくとも自分自身の内部を表現しなければならない作曲の場合で、ほんとうに現代を表す日本人としての自分の音楽の言葉を持っているかが問われるわけなのです。

明治以来、ヨーロッパから入った「ドレミファソラシド」は、ヨーロッパの言葉が音化されたもので、それを日本人の小学校で、まるで自分たちのもののように学ばされてきました。ですから、自分自身の表現であるはずの作曲も、やはり西洋の技法でまとめられた音楽理論を学ぶことからスタートするという教育が一般化している、と言っていいでしょう。ですから、この問題にまずぶつかるのは、とりあえず「作曲しようとする人たち」ということになってしまうのです。

原太郎氏が言われた「作曲家の母語は、その国の民謡である」という方法も、清瀬保二氏が言われた「日本の作曲家の運命的問題」に立った一つの道であることを教えられたように思った私でした。

令和元年度 神奈川県演劇フェスティバル

「演劇が日常となる神奈川を」をスローガンに掲げ、神奈川県内で活動する神奈川県演劇連盟が例年行う演劇の祭典！ 映画やテレビやYouTubeとは違う、【生】の演劇を、お近くの劇場で体験してください！

G/P-Project 公演 「ミスキャスト～アメリカから来た弟」 10月11日（金）～12日（土） 山手ゲート座ホール

劇団よこはま壱座公演 「パーマ屋スマレ」 10月18日（金）～20日（日） 神奈川芸術劇場大スタジオ

劇団こゆるぎ座公演 「小田原藩帰参録 いざ還りなん」 10月19日（土）～20日（日） 小田原市民会館大ホール

劇団蒼い群公演 「あの深い海の底より」 11月2日（土）～3日（日） 横須賀市立青少年会館ホール

演劇プロデュース『螺旋階段』公演 「小田原みなとものがたり」 11月8日（金）～10日（日） 小田原市生涯学習センターけやき

Y.S. ベアフットシアター公演 「巴鼻庵物狂い」 11月16日（土）～17日（日） 横須賀市立青少年会館ホール

劇団かに座公演 「お勝手の姫」 11月22日（金）～24日（日） 新横浜スペース・オルタ

京浜協同劇団公演 「結婚の申込み／死神」 11月22日（金）～12月1日（日） スペース京浜

劇団河童座公演 「The Miracle～ヘレンケラー「我が生涯」より」 12月7日（土）～8日（日） 横須賀市立青少年会館ホール

劇団横濱にゅうくりあ公演 「ヨコハマ・ラブソディ・イン・ブルー」 12月21日（土）～22日（日） 横浜人形の家・あかいくつ劇場

虹の素公演 「失恋博物館Ⅳ」 12月25日（水）～26日（木） スタジオ HIKARI

主催：神奈川県演劇連盟

スタンプラリーキャンペーン実施：スタンプを3つ以上集めて応募しよう
各公演の詳細は、下記の神奈川県演劇連盟 HP でご確認ください。 <http://kenenren.org/>

京浜協同劇団 第93回公演／創立60周年記念 第2弾！

60周年に感謝して

制作 城谷 護 (京浜協同劇団)

おかげさまで60周年記念公演第2弾を今秋11月から12月にかけて上演することになりました。

第1弾は和田庸子作・演出の「おりん—姥捨て異聞」で、昨年11月・12月に上演、大変好評をいただきましたが、今度はガラリと変わって喜劇2本立てにしました。皆様のこれまでのご支援に感謝の気持ちを込めてお贈りすることにしました。

喜劇「結婚の申込」

「結婚の申込」はチェホフの原作を伊賀山昌三が翻案・脚色したもので、秋田弁の面白さを生かした実にコミカルな作品です。

岩根^{とびきち}鳶吉は隣の地主、秩父番助の娘、とみえとは幼馴染です。かねてから嫁に欲しいと思っていた鳶吉はある日、意を決して、とみえを嫁にくれと言いに来ます。ところがふとしたことから、事態はあらぬ方向に……。

これをベテラン、藤井康雄が演出します。鳶吉を演じるのは河村はじめ、初めてともいえる大役です。とみえの役は客演の板垣^{とみえ}けゑさんにお願しました。おやじ番助は演出の藤井自身が演じます。きっと喜ん

でいただけるものと思います。

立体落語^{しにがみ}「死神」

もう1本の作品は、三遊亭圓朝作の古典落語を劇団の護柔一^{ごじゅうはじめ}が芝居の台本に仕立て、立体落語と称して上演するものです。演出も護柔一です。彼は初めて演出に挑戦します。

死神が患者の枕もとに座るとその患者はもう助からないという伝説の世界で、人間の欲が生み出す波乱劇です。

出演は、主役の「男」を若手の田中耕一が、その女房を坂木フミが、そして死神を大谷敏行がそれぞれ演じます。

この作品でも客演の俳優が活躍します。京浜の芝居では常連ともいえるベテラン、小川がこうさんが^{はなしか}噺家の役で大奮闘、久しぶりの出演は阿部佳久さんで越後屋の番頭役、そして小僧の役は、演劇まつりで人気の小学2年生、片柳あおば君がそれぞれ演じます。

2本の作品とも、きっと楽しんでいただけるものと思います。どうぞご期待ください。

京浜協同劇団第93回公演 創立60周年記念第2弾！

喜劇・二本立て

『結婚の申込』

◇チェホフ作／伊賀山昌三脚本／藤井康雄演出

『死神』(立体落語)

◇三遊亭圓生作／護柔一台本・演出

木戸銭 一般 2900円／シニア 2500円／学生 1500円

会場 スペース京浜 (京浜協同劇団稽古場)

問合せ・申込先 京浜協同劇団

〒212-0052 川崎市幸区古市場 2-109

TEL 044-511-4951 FAX 044-533-6694

HP: <http://keihinkyoudougekidan.com/>

この日、この地で、この人々と—60年—
感謝をこめて お贈りする
喜劇2本立公演
会場=スペース京浜 (特設芝居小屋)

【公演】川崎市川崎区古市場 2-109 川崎文化会館 川崎市民文化センター
【お問い合わせ】044-511-4951 (受付時間) 10時～18時
【協力】川崎市川崎区文化振興課 川崎文化会館 川崎市民文化センター

公演日程	11/22 (金)	11/23 (土)	11/24 (日)	11/29 (金)	11/30 (土)	12/1 (日)
朝 11時		○	○		○	○
昼 15時		○	○		○	○
夜 19時	○			○		

◎文化の仲間通信◎

◆演劇集団土くれ 第 68 回公演 くちづけ

日程 10月3日(木) 19:00

4日(金) 14:00、19:00 5日(土) 14:00、18:00

会場 麻布区民センター

(地下鉄日比谷線・大江戸線六本木徒歩 10 分)

演出 石塚幹雄／出演 安原昇・島岡美紀子・小林一雄・斎城薫ほか

料金 全席自由 2000 円 (当日 2500 円)

中学生以下 1000 円

知的障がい者の自立支援のためのグループホーム「ひまわり荘」。漫画家の愛情いっぼんは、知的障がい者の娘・マコを連れて、スタッフとして入居することになった…。

問合せ・申込み 事務局 050-5309-1579 (石塚)

HP : <http://tsuchikure.net>

◆川崎市民劇場 例会

青年劇場公演「あの夏の絵」

日程・会場 10月10日(木) 18:15・11日(金) 13:30

エポックなかはら

10月12日(土) 14:00 幸市民館

17日(木) 18:30 多摩市民館

作・演出 福山啓子／出演 青木力弥・藤井美恵子・傍島ひとみほか

思い出すだけでも辛い体験を、次世代に託すために重い口を開く被爆者。それを受け止め「絵」にしようとする高校生たち…。

問合せ・申込み

川崎さいわい市民劇場 044-244-7481

川崎市民劇場なかはら 044-455-7950

たま・あさお市民劇場 044-911-6920

◆室内合唱団「日唱」特別演奏会

池内友次郎とその門下

日程 10月11日(金) 19:00

会場 豊洲シビックセンター 5 階 (豊洲駅すぐ)

演奏予定曲目 戀の重荷 (池内友次郎)・合唱組曲「蛙」(松村禎三)・くるだんど (三木稔) ほか

出演 山崎滋 (指揮)・室内合唱団「日唱」・松元博志 (ピアノ)・會田瑞樹 (打楽器)・松尾慧 (笛)・山口賢治 (尺八) ほか

料金 一般 3500 円 学生 1000 円 (当日は各 500 円増し)

日本作曲界の父池内友次郎の作品と弟子たちを聴く!

問合せ・申込み 日唱連絡センター 070-5584-5476

HP : <http://www.nissho-chorus.com>

◆劇団よこはま壺座 第 18 回公演

パーマやスマレ

日程 10月18日(金) 19:00

19日(土) 14:00、18:30、20日(日) 14:00

会場 KAAT 神奈川芸術劇場大スタジオ

作 鄭義信／演出 濱田重行／出演 城戸卓・勝碯若子・小林恵・川西玉枝・小川がこう ほか

料金 日時指定予約制・全席自由 一般 3500 円

高校生以下 1800 円 (各当日 300 円増し)

映画「焼肉ドラゴン」につながるルーツがここにあった!

問合せ・申込み よこはま壺座 090-8175-3031

E-mail : yokohama_ichiza@hotmail.co.jp

◆前進座公演 鼠小僧

日程 10月22日(火)～27日(日) (詳細問合せ)

会場 新国立劇場 (京王線初台駅下車)

作 青山青果／演出 中橋耕史／出演 藤川矢之輔・北澤知奈美・山本晴美・忠村臣弥ほか

料金 全席指定 A 席 8000 円 B 席 5000 円 C 席 3500 円

“鼠”が再び駆け出した。大切な人を守るため。

問合せ・申込み 前進座チケット専用 0422-49-0300

HP : <http://www.zenshinza.com>

◆日本の響き、世界の調べ

第 4 回 さまざまな声、さまざまな歌

日程 11月9日(土) 14:00

会場 文京シビックホール小ホール

出演 民謡 (小杉真貴子) / アイヌの歌 (川上さやか・早坂駿) / ホーミー (バートルジャブ・ボルドエルデネ〈モンゴル〉) / オルティン・ドー (ガンホヤグ・バトツェツェグ〈モンゴル〉) / カンテ・フラメンコ (マヌエル・デ・ラ・マレーナ〈スペイン〉) ほか

料金 全席指定 3000 円 学生割引 1500 円

日本と世界の音楽をトークを交えて紹介するコンサートシリーズ。日本の民謡、アイヌの歌、モンゴルの歌、スペインのフラメンコの歌を通じて、日本と世界のさまざまな発声法とうたごえを紹介。

問合せ・申込み シビックチケット 03-5803-1111

◆ちづる+ One だふる ライブ vol.2

～歩いてても歩いても

日程 12月7日(土)、8日(日) 各 14:30

会場 Art & Coffee Room 新紀元 (JR 立川駅北口徒歩 2 分)

出演 秋山ちづる (ピアノ・うた) / みほこん (ヴァイオリン・うた)

曲目 SONATA 相馬幻想・南三陸ホタテのさめざめソング・平和に生きる権利ほか

料金 3000 円 (お菓子付き) 席に限りがありますので、事前に予約してください

問合せ・申込み 080-6527-8196 (秋山)

■文化の仲間ギャラリー■

大谷 敏行⑩

「厳選」大谷敏行の川柳塾

ままならぬ 憲法を 病人の 気の抜けた 小さな声 傷口に	人質に取る政治かな 布団を剥ぐよな消費税 ビールのような味けなさ 二〇一九年八月一日『日本海新聞』掲載 二〇一九年七月二四日『赤旗日曜版』掲載 聞くのには力はいらぬ 塩を塗りこむ消費税	世にはばかれる意趣返し 二〇一九年八月四日『赤旗日曜版』掲載
---	--	-----------------------------------